

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## SDGsって？

エス・ディー・ジーズ

SDGsとは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称で、2015年9月の国連サミットで採択されました。加盟国193カ国が全会一致で取り決めたこの国際目標は、2030年までの達成を目指しています。

「誰一人取り残さない」という理念のもと、今を生きる私たちにだけなく、これから生まれてくる子どもたちが安心して暮らせる地球を残すために、17の目標（ゴール）と169の具体的なターゲットが設定されています。

## SDGsは世界の人々が取り組むべき道しるべ

私たちが暮らすこの地球は今、温暖化に代表されるように破滅の危機に瀕しています。この自然環境だけでなく、その上に成り立っている私たちの社会や文化も、未来永劫あたりまえに持続していくものではありません。持続可能な（＝これから先も続いていく）未来を実現させるために、世界中の人々の意識と行動の変化が求められています。

SDGsの17の目標は、世

界共通のアイコンで示されず、それぞれ異なる色とキャッチコピーが組み合わさったこの目印は、誰でもひと目でわかるよう工夫されています。

SDGsは、明確なルールが示されているわけではありません。国や自治体、個人がそれぞれに合った方法を考える必要があります。私たち一人一人が「自分ごと」として取り組むことが大切です。

## SDGsを守らなければ未来はどうなる？

8年後の2030年までにSDGsが守られなくても罰則はありませんが、未来の子どもたちが安心して暮らせなくなってしまうのです。

目標6や目標13～15に取り組まない未来では、気候変動が激化し、希少生物が絶滅する恐れが高まります。近年頻発する異常気象は、地球規模の気候変動が影響していると考えられており、世界中で温室効果ガスを抑える取り組みが広がっています。



# 特集 こうさの SDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

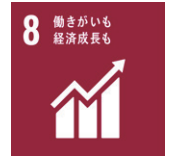
また、目標1～5や目標7・11・16が達成されないと、格差や不平等が広がりが対立が激しい社会になりかねません。一方で、目標8～10や目標12の対策が進めば、日本で広がる非正規雇用や学歴による所得格差、働き方改革などの経済問題の改善につながります。

## 私たちができること

SDGsは決して特別なことではありません。どの目標も私たちに身近なものばかりです。一人では難しい取り組みも、目標17が示すように連携することで道が開けるかもしれません。未来のために「こうさのSDGs」を一緒に考えてみましょう。



# 古民家 × まちづくり



## ■町が取り組むSDGs

2017年12月に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略2017改訂版」において、地方創生の推進のために、地方公共団体もSDGs達成への積極的な取り組みが不可欠とされています。町では、この国の方針を受けて、昨年3月に策定した「第7次甲佐町総合計画」に基づきさまざまな施策を通じたSDGsの達成に取り組んでいます。

## ■古民家の利活用で持続可能なまちづくりを

町では、これまで、熊本地震で被災した築140年の古民家の再生を通じた新たなまちづくりを進めてきました。取り壊す案も出る中、みんなでなんとか活用しようという「こうさてんプロジェクト」が2017年にスタート。大工や左官の職人が講師を務める改修ワークショップでは、町内外から参加した学生や地域住民が床の解体や土壁づくりなどを体験。新たな交流が生まれました。

2020年10月、一棟貸しの宿泊施設を併設した古民家レストランとして生まれ変わ

わったこの古民家は、町内外から多くの人が集う交流の拠点となりました。甲佐産の野菜などを使ったレストランのにぎわいは、新たな雇用や地域経済の活性化につながっています。

## ■空き家バンクで「もったいない」を「ありがとう」に

全国各地で空き家の増加が社会問題となる中、町では2018年6月に空き家バンクを設置し、その利活用をサポートしています。空き家を資源と捉え、有効活用を進めることがSDGsの達成につながります。

思い出の詰まった古民家があだ朽ちるのは、もったいない。空き家バンクを活用し

## 空き家という資源を地域振興につなげる

町地域振興課  
本田 幸嗣 係長



町では、空き家バンク制度を通して物件の購入または賃借する人を対象に、その物件のリフォーム費用や不要物撤去費用を一部助成しています。この支援を活用して移住したり、新しくお店を始めたりする人も増えつつあります。

一方で、登録物件は豊富とは言えず、コロナ禍で増えた移住希望者からのお尋ねに答えられないことも少なくありません。活用していない住居や宅地をお持ちの方は、空き家バンクへの登録をご検討ください。

甲佐町空き家バンク 登録番号 第16号		空き家	売買
所在地	中佐大字東郷		
構造	木造瓦葺平屋		
価格	200万円		
価格	-		
敷地面積	約140㎡		
建物面積	約110㎡	築年	約20年
延床面積	約80㎡	建築済みの間取り	約20坪3対1
用途	住宅	用途	住宅
設備の状況			
駐車場	有	水道	地下水・トイレのみ上水道
風呂	なし	ガス	なし
キッチン	なし	エアコン	なし
床	畳	床	畳
その他			
主要道路からの距離		駅距離	
町道	25m	国道	22m
市道	10m	町道	10m
市道	600m	市道	45m



「甲佐町空き家バンク」の詳細はこちらから▼

空き家バンクに登録中の物件情報を確認できます

て、あなたの「もったいない」を、新しい暮らしを始め誰かの「ありがとう」につなげてみませんか。

# 地場産物 × 学校給食



食育で子どもたちの健康や地域の食文化を守る

偏った栄養摂取や朝食欠食といった食生活の乱れなど、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化しています。これらの解決に重要な役割を果たすのが「食育」です。

学校給食では、成長期にある子どもたちの健康を保ち、よりよく成長できるように、栄養のバランスを考えた献立が作られています。地域で採れた旬の野菜や特産物を使うことで、生産者への感謝の心や地域の食文化を学ぶことにつながります。

地産地消で温暖化抑制を  
学校給食では、お米や野菜

## 特産物を使った給食で地域を学ぶ

甲佐小学校 栄養教諭  
永岡 沙織 先生



町では、特産物のニラはもちろん、甲佐産の新鮮な野菜やお米などを使った給食を提供しています。子どもたちには楽しい給食を通して、このまちの豊かな農産物について学んでほしいです。私たちも、子どもたちの郷土愛を育むような給食が届けられるようにがんばります。



▲今日の給食はこちらをご覧ください

などできる限り地場産物を活用した給食が作られています。地域で生産された食品を積極的に使うことで、輸送コストが抑えられるだけでなく、トラックの長距離移動がなくなるため排出される二酸化炭素の削減にもつながります。

地産地消は学校給食だけでなく、私たちの家庭でもできる取り組みです。子どもたちに郷土の食文化を残してあげられるためにも、賢い選択が求められています。

▼給食に関するお問い合わせ先  
甲佐町学校給食センター  
096・234・0255

## 未来のために私たちができること

今を生きる私たちが、次世代の子どもたちの未来を守るためにできることは何でしょう。ここでは、生活の中で私たちができる身近な取り組みの一部をご紹介します。あなたは何から始めてみますか。

### 肉より野菜を選ぶ

野菜や穀物を育てるよりも水や餌などの資源をたくさん必要とする肉の生産。牛肉1キログラムを生産するのに6〜20キロの穀物を消費すると言われています。肉料理を控えることも必要かもしれません。



### 公共交通を使う

気候変動の抑制で大切なのは、二酸化炭素を出さないこと。できるだけ自家用車を使わずに公共交通を選択しましょう。地域交通の存続には多額の維持費が必要です。雇用を守る助けにもなります。

### レジ袋は使わない

海洋プラスチックごみが問題になっていきます。海から離れた場所でポイ捨てされたレジ袋も川を下って海に流れ込んでしまいます。ごみになるレジ袋は使わずに、マイバックを携帯しましょう。



### こまめに節水・節電を

水が豊富な熊本ですが、その恵みにも限りがあります。また、電気を生み出す火力発電所の稼働を抑えるためにも節電は有効です。私たち一人一人がこまめな節水・節電に取り組みましょう。





前田琉之介さん（上豊内区） 甲斐莉佳子さん（岩下二区） 西村隆寿さん（井戸江区） 田上虹夏さん（緑町区） 佐藤雅治さん（仁田子区）



川口時空さん（下横田区） 佐村真心さん（上早川一区） 和田叶夢琉さん（浅井区） 村田早紀さん（中横田区） 甲斐俊太さん（中横田区）



本田さらさん（北原区） 後藤悠月さん（船津区） 森田めぐみさん（船津区） 上田晃綺さん（府領区） 井芹優さん（山出区）



岡部蓮華さん（北早川区） 上田竜太郎さん（芝原区） 田端琉花さん（芝原区）

2030年に二十歳を迎える子どもたち。彼らの未来を守るのは、今を生きる私たち大人に課された責務です。

もっと知りたい人は町の図書室で！

▶SDGsの入門書、Q&A形式でわかりやすく解説。



『世界でいちばん素敵なSDGsの教室』  
小林 亮 監修 / 三オブックス 発行

▼お問い合わせ先  
町企画課  
096-234-1115

世界がSDGsの達成を目指す2030年まであと8年。それは、この春、小学校を巣立つ子どもたちが二十歳を迎える年と重なります。時間はあまり残されていません。8年後、あなたはどんな生き方をしているでしょうか。これは、私たちが暮らす地球からの問い掛けです。

2015年9月27日、ニューヨークで開催された国連サミットに、すべての加盟国の首脳が集まり、SDGsの採択が決まりました。全会一致での決定は、各国が共通して危機意識を持つていることの表れでした。それからまもなく7年。気候変動に起因すると考えられる豪雨や台風がもたらす災害が毎年のように発生する中、折り返しの年を迎えようとしています。